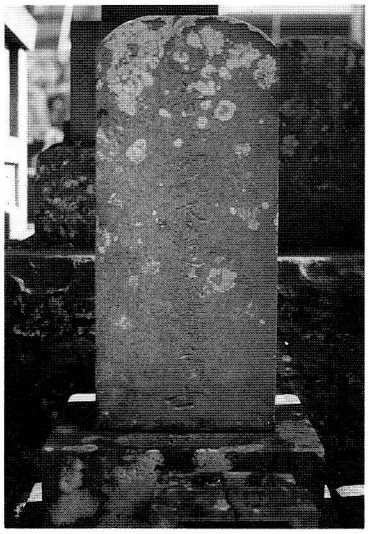
沼津市

明治史料館通信

1998. 7. 25（季刊 年4回発行）Vol.14 No.2　通巻第54号

幕末の新戦術家
「成瀬善四郎の墓」
沼津市蓮光寺で發見
事蹟調査に來た國友氏頓死



〈右〉成瀬善四郎正典（石井至誠氏所蔵）
慶応年間撮影

〈左上〉成瀬の墓について報じる新聞記事
（『静岡新報』昭和13年1月23日）

〈左下〉沼津市三芳町の蓮光寺に残る成瀬の墓
正面には普覚院大道慈済居士とある

シリーズ
沼津兵学校とその人材 50

大統領に会ったサムライ
成瀬善四郎正典の墓

万延元年（一八六〇）、日米修好通商条約の批准のため幕府が派遣した遣米使節に外国奉行支配組頭として随行した成瀬善四郎正典という人物がいる。使節団はアメリカ軍艦ポーハタン号に乗船したが、その随行艦として咸臨丸が太平洋を横断したことは周知の事実である。成瀬はホワイトハウスにおいて、正使・副使のすぐ後ろに従い、狩衣・烏帽子姿で時のブキャナン大統領に謁見したのである。

成瀬が維新後沼津に移住し、ここで亡くなったこと、現在も墓が残ることは地元ではあまり知られていない。それは戦前においても同様であったようであり、昭和十三年（一九三八）一月二十三日の『静岡新報』には、東京の研究者が探訪に訪れたという、以下のような記事が紹介されている。

幕末の新戦術家　成瀬善四郎の墓
沼津市蓮光寺で発見
事蹟調査に来た国友氏頓死

（夕刊所報）折角沼津市まで史蹟調査に来ながら脳溢血を起して市役所前で卒倒しついに死亡した、東京市豊島区堀ノ内一九三国友徳芳氏（六〇）は史蹟調査には非常な熱心家であるが、此の度は万延年間に我国の使節として米国に渡つた新見豊前守に随行して行つた一人の、成瀬善四郎氏が明治元年に沼津に来て庶民救済の為めに沼津の駿東病院の建設に力を尽し沼津市に於て没し其の墓も沼津市内にある處から同氏の事蹟を明瞭にして由緒ある處を史蹟天然記念に指定してもらふ様努めるべく態々沼津市に来たものである。それで今後は由緒ある成瀬氏は如何なる人物であるかを調べると文政五年江戸湯島天神下に生れ万延元年一月新見豊前守正興に従つて我国の使節として米国に渡り安政条約の交換をなし同年九月帰朝、直ちに騎兵指図頭取に就任、慶応三年開成所頭取に進み、軍用器具の研究をなしたり、三角定規、コンパス測知方法を伝習した、文久元年一月三浦半島、伊豆半島、無人島小笠原島等の測量をなし明治元年十二月廿二日に沼津に来て庶民救済の為めに駿東病院を建設（其の病院を沼津兵学校の病院ともあり）し明治二年七月二日に没したものである。成瀬氏のお墓は沼津市三枚橋名刹蓮光寺にあるが、要するに国友氏は此の一済を事実に置いて明かにし当時測量界の大家である成瀬氏の由緒ある處を天然記念物として永く保たしめたいと云ふのであつた、同氏の調査研究が完成せば成瀬氏のお墓も世に出で又駿東病院は我国に於ても最も古き歴史を有する、のみならず斯く名ある人によつて起された事も世に知られる事となる（写真は成瀬氏と其の墓）

成瀬は、騎兵差図役頭取・砲兵頭並などを歴任したという経歴からいっても沼津兵学校の教授に迎えられてもおかしくなかったが、静岡藩では何の役職にも就いていないようだ。紹介した新聞記事では沼津病院の設立に尽くしたことになっているが、それは何を根拠とした説明なのかわからない。一方、彼の実弟矢田堀鴻は権少参事・軍事掛として兵学校の管理者となっている。また、二人の姪は兵学校教授田辺太一・浅井道博の妻である。さらに、義理の弟（妻同志が姉妹）石井至凝は兵学校資業生になっていた。

兵学校が盛大に向かいつつあった明治二年（一八六九）、成瀬は四十九歳で病死した。

〈参考文献〉楠善雄『土木屋さんの史学散歩』（一九七六年、鹿島出版会）、樋口雄彦「成瀬善四郎正典とその墓」（『沼津史談』38、一九八七年）

ぬまづ近代史点描 ㊲

明治六年沼津城内旧幕臣割付図に載った旧幕臣の氏名

昭和五年（一九三〇）九月三十日付の『静岡新報』と『毎日新聞（地方版）』に、沼津市の有力者の家から明治初年沼津城内に移住した旧幕臣の居住地を示した大きな図面が発見されたことが報じられた。現在この図は当館の所蔵品となっており、昨年刊行の『沼津市史史料編近代1』の口絵にも写真が掲載されたところである。

原本（縦一二八cm・横一七三cm）は折り畳んであり、「沼津城内原図」と外題が貼られているのみであるが、昭和十五年当時にこの原図を書き写し、軸装で複製品を作った郷土史家大野虎雄は、「沼津城内（添地西条ヲ含ム）旧幕臣割付図　明治六年」と、独自に表題を付している。

さて、この図に一区画毎に記入されている居住者である旧幕臣の氏名は、左の一覧の通りである。総数は四四二名になる（他に破損のため解読できない人名もあり）。すでに廃藩後であり、兵学校の教授・生徒の大多数は東京へ去っていたが、いまだ本籍を沼津に残していたり、家族を残していた者も少なくないようで、兵学校関係人物の名前も散見する。沼津兵学校附属小学校の後身集成舎や駿東病院は示されているが、兵学校の校舎であった城内の建物が描かれていないのは残念である。

ア
青柳林造　青柳孝房　赤井忠保　相
原惟章　秋鹿見山　秋元盛之　厚木
勝久　雨宮知剛　秋田季孝　荒木治
経　安藤繁一　荒見道信　浅野正直
天野美保　天野貞省　雨宮文晴　朝
比奈政宣　奈佐政和　青木栄次郎
天野正誼

イ
飯田正平　岩佐勝　石崎幸十郎　入
江軌幸　飯田満高　伊藤直温　石川
春明　犬塚鎩七郎　伊丹政挙　伊藤
真翰　石井常徳　市川栄　飯田清綱
石川輝雄　岩間清　池原保明　岩瀬
俊章　岩下志盛　井上義次　石坂友
之　石山覚造　生田万三　石川長橘
石川正身　伊藤祐明　池田義治　伊
藤敬治　入山熊次郎　井口一人　岩
間義徳　伊庭秀興　石川武雄　飯島
為直　井戸弘光　井上力　池谷信義

ウ
内田栄　宇田川吉造　臼井護時

エ
江坂鉄八郎　遠藤保次　榎本長裕

オ
大村栄雄　岡本伝広　大草公理　岡
田正直　小笠原景則　太田浩道　大
塚友益　大木捨蔵　大野寛一　小田
藤吉　岡本永　大高正寿　太田源太
小野守三　長田福次郎　奥田忠順
小川易道　大久保忠正　太田弘秀
尾瀬田弥三郎　岡田善建　大草善久
大久保忠道　大村武　大津官　小田
川彦一　小沢安継　小山栄　大野高
利　岡田正　小川安村　岡村正道
大久保忠実　長田正啓　岡村義一
大川泰武　小田信二　太田栄次郎
小川忠行　岡島拡　太田英常　大屋
径明　小浜則徳　恩田忠恕　小櫛師
徳

カ
川村宣常　加藤泰吉　川島保　梶田
義勝　神田明智　金子昌明　筧清造
金森正美　加藤清樹　川口嘉　川崎
依長　春日井信匡　川口可晴　金子
雄三郎　河合吉久　海津三雄　亀岡
為定　加藤元吉　加藤直休　柏木義
近　金子直寿　加藤栄太郎　加藤旺
美　河合清吉郎

キ
木下孝友　北島吉一　木村義永　北
川忠栄　木部直孝　木村元実

ク
黒田信行　久保木純　桑原三　工藤
正吉　黒沢金道　蔵田貞正　桑原佐
平太　黒沢喆　櫛田頼雄　栗山箇尾
栗原宗継　倉林五郎　黒田直与　黒
沢成政

コ
児島義高　小林道文　小島兼三　小
堀豊重　小林平六　小松陳盛　小林
道弘　小森善太郎　権田正三郎　小
林保吉　小長谷広重　小林正識　河
野通弘　小山信需　近藤馬橘　後藤
克紹　近藤宗一　幸田政方　小山義
範　小久保政応　小山範策　児島正
篤

サ
斎藤信安　佐藤経寿　佐藤常信　坂
本英延　佐藤昇　斎藤透　斎藤忠吉
佐藤宗孝　酒井忠良　佐橋佳哉　匂
坂高満　坂口正久　坂部成富　佐藤
謙吉　坂本復之　坂本文炳　斎藤源
二郎　佐々木太郎　斎藤昌一　佐藤
温崇　佐野運寿　坂上鉄太郎

シ
重田甲保　進藤進　篠木宏　篠崎顕
忠　神保長久　志村金次郎　清水徳
威　島田忠義　塩見辰三郎　下山豊
吉

ス
杉野良安　鈴木観太郎　鈴木栄次郎
杉浦錦三郎　須郷清貞　鈴木浩行
鈴木知　杉田玄端　末吉孫蔵　杉山
利統　杉山政任　鈴木高明　須郷忠
勝　鈴木重成　杉山豊次　鈴木一作
鈴木成虎　鈴木敬治　鈴木政直　鈴
木義

セ
関義信　仙波種艶　関巳吉　関大之
千田泰根

タ
高塚泰久　竹内正誼　高井利房　高
木清安　田中鉋太郎　高村得之　竹
内有好　田中啓三　高橋利幸　田中
義親　高橋儀清　高木直清　田村忠
行　田村顕忠　高橋富保　丹野誠正
田辺直　高松寛剛　高橋晋平　立花
信直　田中政□　高岡初　高井長光
高田尚賢　田丸直方　田中善八郎
千野隆三

チ

ツ
土戸翼忠　都筑祐次　築山館二郎
常峯光忠　土屋氏貴　塚田金蔵　土
屋孝尚　津田輝坦　柘植千波　都筑
義質　辻久司

ト
鳥洞道覚　戸田成保　戸張忍　鳥山
保情　鳥羽定静　徳田定賢　豊高玄
春　土肥高正

ナ
中村豊蔵　南条近信　中根鑒吉　中
山正次　内藤融徴　中藤昶寿　長持
政明　中村捨次郎　名和謙次　中島
新七郎　梨本静活　中川冬得　中藤
昶静　並木元節　内藤信照　中島静
中山守賢　中根信登　中村鐘次郎
中林政則　中島錫次郎　中村義永
永井直方　中村恒徳　中川伝　成瀬
守帯　中村武　長島徳次郎　中野雅

ニ
西村信応　西村正　西川伝次　西村
邦道　西安　西村鉄五郎　西村正立

ネ
根岸正次　根岸治平

ノ
野本知雄　野村忠義　野村知吉　野
口昇　能勢新太郎　野沢子太郎　野
沢俊次郎　野口保三　延生宣興　野
々山鉦蔵

ハ
服部忠長　原野金蔵　長谷部長民
服部勝　浜島和道　早川秀太郎　原
田充種　春野正愛　原田信豊　原田
嘉十郎　早川省義　長谷川藤義　林
高道　原田信民　羽島豊昭
樋野政治　平岡鏡次郎　平岡芋作
平岩乙次郎　平山鉦

フ
藤本良平　深谷義包　古沢利高　福
島柳介　藤井良　藤井直忠　深谷師
安　福島司　福島敏明　深井高一
福井信之

ヘ
別所光武

ホ
堀江敬慎　保々義勝　堀長貴　堀口
秀在　堀江信之　細野嘉一　本多久
尚　堀政恒　細井勝文　本多忠行
堀江周泰　本多忠直　本庄修平

マ
馬淵正文　松崎修　丸山直貞　松本
謹子　丸山要　松本宗次　松田正道
前田信利　松村定重　万年昭明　万
年市次郎　間宮信行　間下信近　松
村角次郎　松尾一衛　丸橋行　松平
忠行　松平政房

ミ
三浦元由　溝口勝明　宮沢賢蔵　三
沢春宗　宮川保全　水沢善勝　三好
忠政　三輪久之　水上広要　三橋信
之　水野勝智　水野勝興

ム
村上弥市　村田重安　村上義章　村
井光方　村山成信　村上義

メ
目佐久元治

モ
森屋重則　森本延英　本地利益　森
川重申

ヤ
山本銀蔵　矢代護次郎　山崎美高
山田直之　八木岡鶴次郎　山崎塊一
山本友寿　柳下継寧　山口知重　山
田安利　山口保忠　山口有記　柳田
真一

ヨ
横山高明　吉川直方　与良吉正　吉
田東保　横田惟孝　横川渉　横地重
直　吉村和楽　吉田周平　吉沢資敬

ロ
六郷豊松

ワ
若山憲章　渡辺朝光　渡辺房　和田
清貞　渡辺英興　渡辺東吾　渡辺信
金　渡辺温

お知らせ欄

◎企画展「近世・近代ぬまづの画人たち」の開催について

この7月1日(水)から9月27日(日)までの開期で開催しています。江戸時代から昭和戦前期までの沼津市域の画人・画家たちとその作品を紹介するものです。埋もれていた彼らの存在から、地域の文化的豊かさを知っていただければと思います。展示する主な画人は以下の通りです。〔久保田泰温・鈴木謙斎・植松応令・原一晁・羽田南江・水野忠成・磯部菊渓・窪田翠濤・一運斎国秀・植松対雲・宇田雨柳・植松草里・佐々木古桜・白岩寛水〕

磯部菊渓の落款

今回この「広昌之印」という印章が発見されたことにより、江戸で活躍した浮世絵師歌川広昌と沼津の画人磯部菊渓とが同一人物であることが裏付けられた。

◎図録『近世・近代ぬまづの画人たち』の刊行

企画展にあわせ図録を刊行しました。沼津の画人たちの作品を多数掲載し、あわせて彼らの履歴についても紹介しています。B5版・56頁（内46頁カラー）。頒価一、〇〇〇円。

◎歴史講座「『沼津市史』を読む」の開催について

現在刊行中の『沼津市史』のうち、既刊分三冊の史料集について、その掲載史料を解説しながら、沼津市の歴史をやさしく紹介します。日程・講師・担当は以下の通りです。

8月1日　久保田富氏（市史編さん専門委員）古代・中世
（土）

8月8日　辻真澄氏（市史編さん専門委員）　近世1
（土）

8月15日　樋口雄彦（明治史料館主任学芸員）　近代1
（土）

8月22日　四方一泝氏（国士館大学教授）　近代1
（土）

〔時間〕午後2時から4時

〔会場〕明治史料館講座室

〔費用〕市史をお持ちの方は持参して参加して下さい。お持ちでない方は、実費で資料コピーを分けます。

〔申込み〕当館まで電話で。

◎平和を考える親子戦争史跡めぐりの開催

マイクロバスで市内に残る戦争関連の史跡をまわります。左記の要領で参加者を募集します。

〔日時〕8月18日(火)午前9時から午後4時まで

〔対象〕小中学生とその保護者

〔定員〕10組20名

〔費用〕無料。弁当持参のこと。

〔申込み〕当館まで電話で。受付開始は7月24日(金)

〔コース〕海軍特攻基地跡(江浦)、戦時疎開学園建物(我入道)、拓南訓練所跡（足高）など。

◎古文書解読入門講座の開催

以下の日程で、はじめて古文書に接する方を対象として初心者講座を行います。

〔日程〕9月6日、13日、20日、27日、10月4日の五回。時間は午後2時～4時。

〔講師〕久保田富氏（市史編さん専門委員）

〔定員〕40人

〔申込み〕電話で（先着順、受付開始は8月8日）。

〔費用〕教材費のみ実費で

◎ビデオ「東海道沼津宿・原宿」の制作

館ロビーにおいて自動検索でご覧いただいているビデオの作品に「東海道沼津宿・原宿」が新しく入りました。江戸時代の道と町の歴史についてやさしく紹介した内容です。時間約10分。

沼津市明治史料館通信　第54号
編集・発行　沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂三七二―一
電話 〇五五九―二三―三三三五
FAX 〇五五九―二五―三〇一八